職能科通信２６号

2014年10月発行　職能科通信　検索

〒243-0121
神奈川県厚木市七沢 516
神奈川ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ病院
職能科
TEL&FAX 046-249-2575

高次脳機能障がいの方への問題解決技能トレーニング

職能科では、就労や復職後の職場適応をよりスムーズにするための問題解決技能向上を目的として、平成 25 年度より当病院心理科との合同プログラムとして、「問題解決技能トレーニング」を実施しています。実施するにあたっては、障害者職業総合センターで開発された「発達障害者のワークシステム・サポートプログラム」の一部である「問題解決技能トレーニング」を参考にし、プログラムを運用しています。

写真１　職員によるトレーニングの試行

職能科訓練を受けている患者さんの中には、高次脳機能障がいの影響で発想力が低下し、効果的な解決策が思いつかない方や、思考の柔軟性が低下し、自分の解決策に固執してしまい失敗を繰り返してしまう方がいらっしゃいます。何よりも、失敗を繰り返すことで、問題解決できるという自信を失ってしまっている方が多くいらっしゃいます。そのような方々をプログラムの対象としています。重度の記憶障がいを持つ方の場合、日頃のエピソードが想起できないこともあるため、メモ等の代償手段が確立されプログラムの効果が見込めるか等を検討し、参加してもらうことにしています。

参加した患者さんにどのような状況で問題を抱えるのか再認識を促すこと、その上で、問題を解決するに当たっては多くの選択肢があることに気づいてもらうことはプログラムの大きなテーマとなります。問題解決技能トレーニングでは、「日常生活や当職能科の模擬職場で日頃困っていること」を発表してもらいます。グループでブレインストーミングの手法を用い、解決策をできるだけ多く発案します。その中から、より効果的で現実的な解決策を問題発表者が選択し、選択した解決策については、実際の生活場面や模擬職場場面で実行してもらいます。

他の方が苦労しているエピソードを聞いて「そういうことある」と共感されたり、「そのような解決策があるのか」と気づきを得たりする場面が、実際にプログラムを進行していくと見られました。グループに参加された患者さんからは、「他の人の意見が聞けて参考になった。」「日頃困っていることを解決する自信が少しだが持てた。」等の感想が寄せられています。今後も、患者さんのリハビリに効果的で満足度の高いプログラムが提供できるよう、継続的にプログラムの見直し・開発を進めていく所存です。　　（小林　國明）

「脊髄損傷のリハビリテーション理解編」（報告）

９月３日(水)、地域支援センター主催の表記研修会が当病院において開催されました。医療職･介護職などを対象として、40 名の方に図１の内容の講義を行いました。

- 脊髄損傷者の理解（リハビリテーション科　高内裕史）
- 脊髄損傷者の看護（看護局　脊髄損傷病棟　鈴木知絵）
- 脊髄損傷者の相談･社会支援（SW　佐藤健太）
- 脊髄損傷者の就労支援（職能科　松元健）
- 脊髄損傷と尿路感染（泌尿器科　田中克幸）

図１　講義の内容

写真２　研修会の様子

職能科の講義では、訪問介護･看護･リハを受けながら在宅勤務をする頸髄損傷者の実際場面の紹介と、頸髄損傷や神経難病などによる重度身体障がいの方が在宅就労を目指す上で必要な力と段階に応じた支援の概要を説明しました。(写真２)

地域で暮らす重度身体障がいの方の中には、「仕事をしたいけど、あきらめている」「仕事ができるかどうか悩んでいる」という方がいらっしゃると思います。生活の最前線で支援をされる関係機関の皆様との連携を図りながら、少しでも就労のご希望のある県内在住の重度身体障がいの方に対して、希望の持てる支援をしていきたいと思います。毎年開催されるこの研修会は、そのような思いでお話をさせていただいております。(松元　健)

平成２６年度就労支援の実績

職場内リハビリテーション実施人数	
2014年4月～9月の累計	7名

就職・復職者の人数		
2014年４月～９月の累計	新規就労	10名
	復職	15名

封筒作製作業の紹介

職能科では、就労支援部門の模擬職場と能力開発部門(地域生活支援)で、主に高次脳機能障害の方に対し、手指の巧緻性や注意力・遂行能力の向上等を目的に封筒作製を行っています。この作業は、封筒の型枠を印刷し、切り・折り等の過程を通し封筒を完成させます。一見、簡単そうですがカッターや定規等、道具の使い方や作業中の安全への配慮が求められます。(写真３)

写真４　指示書

高次脳機能障がいの影響を評価する為に重要な点は、封筒作製の手順書(写真４)を確認し、手順書通りに作製できるか、指示の理解ができるか、また封筒１枚の作製時間、どの工程が得意・苦手か等が挙げられます。これらの遂行能力・注意力の影響によって、封筒の完成度、作製時間の短縮や継続した作業が可能かどうかの違いが生じるため、地域生活、新規就労・復職に向けた基本的なチェックとしてこの作業を活用しています。

写真３　糊付け

(増尾　奈緒子)